

香港のインドネシア人家事労働者による宗教文学創作運動からみる

(再) 生産領域のグローバル化

天理大学 澤井志保

【1. 目的】移住家事労働のグローバル化が、国際移住家事労働者による社会運動を生み出したことはすでに指摘されている。本報告では、香港で働くインドネシア人家事労働者によるイスラーム文学創作運動グループの設立の経緯と活動形態を検証することにより、インドネシアと香港という二つの社会的発展がインドネシア人家事労働者によって偶発的に接合され、社会運動として成立するに至るプロセスを浮かび上がらせる。これにより本報告は、「再生産領域のグローバル化」のアクターとして語られてきた国際移住家事労働者を、社会運動の担い手という視点から考察することにより、出身社会と受け入れ社会両方の「生産領域のグローバル化」のアクターとしても捉えようと試みる。

【2. 方法】筆者が行った現地調査にて得た資料とフィールドノートから、当該グループの設立には、1990年代以降のインドネシアでの社会変化とともに、香港でのインドネシア人家事労働者をめぐる状況変化が重なりあって、当該グループが活動する基盤が生まれ、インドネシア人ムスリム女性家事労働者有志によって当該グループが設立させるという経緯を詳察する。そして、このグループが、メンバーの著作を共同出版するとともに、イベント企画運営などを通して経済的利益を生み出しつつ、現地のインドネシア人家事労働者独自の視点からみた運動 이슈やフレームなどの価値観をも創出した点も指摘する。

【3. 結果】議論の結果、当該グループは、香港とインドネシアそれぞれの社会状況が折り重なったことに加えて、グループ創立メンバーのイスラーム文学創作運動への情熱によって設立が可能になったことが明らかになる。そして、運動が組織化されるにつれ、当該グループ独自の認識や価値観が醸成され、香港での移住労働経験についての著作をインドネシア語で出版し、香港で得た経済的利潤をインドネシアや他の国のムスリムのために積極的に供出することで、いわゆる生産領域をもグローバルに繋ぎ合わせるアクターとなっている可能性を指摘する。

【4. 結論】以上から、「再生産領域のグローバル化」が、実は「生産領域のグローバル化」をも生み出す可能性が見て取れる。そして、グローバルなイスラーム勃興、国語文学のトランスナショナル化などにも関わる多重的なアクターとして、当該運動が存在していることが示される。